

宇都宮市立清原北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○1ヶ月の読書量が11冊以上と回答している児童の割合が市や県と比べても高い。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的割合は85%と高く、「国語・社会・算数・理科の学習は、将来のために大切だと思う」の肯定的割合も高い。引き続き、授業の中で、学習の意義を意識できるような指導を行っていく。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定割合が高く、クラスの雰囲気がよいことが読み取れる。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の肯定的割合が市や県より低い。辞書で調べたことやインターネットから得た知識を活用する機会を、積極的に設けるようにする。

●「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定的割合が低く、「家庭での学習時間」の学習時間が市や県より短い児童が多い。家庭学習の定着をはかるために、学習例を示したり、意欲を高められるような働きかけをしていく。

宇都宮市立清原北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や 成就感を高める授業づくり	・めあての提示と見通し、学習の振り返りを徹底した授業づくり ・デジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や板書、授業展開の工夫	「授業の中で、目標が示されている」の肯定的割合は、5年生が100%、4年生が70.6%であった。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」では、5年生が75.0%、4年生が58.8%であった。また、「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」では肯定的割合が、5年生は100%、4年生は76%だった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の肯定的割合が低い。 ・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と考えている児童が多い	・国語辞典を活用した指導の工夫 ・書く力を高めるための指導	・朝の学習の時間や授業の中で辞書を使ったり、辞書で調べたことやインターネットから得た知識を活用する機会を、積極的に設けたりするようにする。 ・自分の考えを読み手のことを考えて書く活動や、時数制限や短い言葉で要点をまとめて文章を書く機会を多く作っていくようにする。